

保護者のみなさんへ

再認識 「読むこと」の大切さを

「食べるとき 喋るな」

新しい生活様式とは意味合いが違えど、五十年前の親父の言葉が蘇ってくる。

突然の臨時休業、再開、分散登校と目まぐるしい動きに対し、それぞれ家庭事情がある中、適切に対応してください、感謝いたします。

有難うございます。

人工物に囲まれた現代社会ですが、コロナ禍において、私たちは自然の中に身を置いていることを痛感します。また、防止策の基本が、人間がもっとも大切にしてきた「人」と「人」との直接のつながりを避けることであるのが、なんとも厄介なところでは。

さて、私が今、危惧しているのは、子供の成長に及ぼす影響です。このような時だからこそ、子供の成長にとって重要な経験は何かを考える必要があると思います。心身の健康や生活習慣、友達との遊びなど。どれも欠かすことのできない営みです。その中で、今、一番気にかかっているのは、勉強は大丈夫なのかということではないでしょうか。

一言で勉強とはいえ、さまざまなお内容があります。それらの中で、欠かせない活動を、あえて一つだけあげよと問われたならば、どう答えますか。私は、やはり「読むこと」だと答えるでしょう。「読むこと」は、想像力の育成はもちろん、自己の心情や考えを形成する源であると思うからです。読むことが万能だということではありませんが、読む力がさまざまなことを吸収する度合を左右するといつてもよいと思います。また、「読むこと」と「表現すること」は密接に関係していま

す。表現するとは、勝手にしゃべればよいということではありません。「話すこと」にしる、「書くこと」にしる、豊かな表現は、自分の考えや思いが置かれた場面や立場に応じて、適切な言葉で他者に伝えられることで醸し出されます。そこへ導いてくれるのが、「読むこと」であり、その重要性は、いかに時代が変わっても、子供の成長にとって欠かすことのできない習慣の一つだと言えます。

今、子供たちは屋内での生活を余儀なくされています。この際、読書習慣を身に付けてみてはどうでしょうか。

入学して間もない一年生に、どんな勉強をさせればよいのかと迷っておられるのは不思議なことではありません。でも、できることがあります。それは、好きな本を、子供が繰り返し読むことです。覚えるぐらい読むと良いでしょう。この基礎が、後に大きな原動力となるはずで

す。終わりに、今、学校と連携して、試行錯誤しながらオンライン学習の実現に向けて、取り組んでいます。

引き続き皆様方の御理解・御協力をお願いいたします。

令和二年五月十一日

海田町教育委員会

教育長 佐々木智彦